



## 2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月4日

上場会社名 オイレス工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 6282 URL <https://www.oiles.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯田 昌弥

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 企画管理本部長 (氏名) 須田 博

TEL 0466-44-4901

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

2021年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	28,615	23.8	2,644		2,919	456.7	1,918	477.2
2021年3月期第2四半期	23,115	21.9	226	90.1	524	79.0	332	80.0

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 3,208百万円 ( %) 2021年3月期第2四半期 272百万円 ( 78.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	61.09	
2021年3月期第2四半期	10.61	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	83,138	65,042	77.0	2,037.67
2021年3月期	80,615	62,557	76.4	1,963.96

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 64,056百万円 2021年3月期 61,589百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		15.00		25.00	40.00
2022年3月期		25.00			
2022年3月期(予想)				25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,200	9.9	4,750	51.3	4,900	30.2	3,400	34.6	108.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	34,300,505 株	2021年3月期	34,300,505 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2022年3月期2Q	2,864,483 株	2021年3月期	2,940,720 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期2Q	31,398,367 株	2021年3月期2Q	31,308,239 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(追加情報) .....	10
(セグメント情報等) .....	11
3. 補足情報 .....	12
(1) 受注及び販売の状況 .....	12
(2) 地域ごとの売上高 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響で一進一退の状況にあり、輸出の増加を受けた製造業が堅調な一方、度重なる緊急事態宣言の発令によって観光業や飲食業は低迷が続くといった二極化が鮮明でした。当社の属する製造業においては、輸出の増加を背景に生産用機械や電気機械は堅調だった一方、輸送機器では東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大に伴う減産が業績を下押しするなど、業種によってばらつきが出てきております。このような状況のもと当企業グループでは選択と集中をグループ全体にわたって徹底し、成長市場への取り組みを一層強化してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は28,615百万円(前年同期比23.8%増)、営業利益は2,644百万円(前年同期は226百万円の営業利益)、経常利益は2,919百万円(前年同期比456.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,918百万円(前年同期比477.2%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ①軸受機器

一般産業向け製品においては、インフラ整備の進行と設備投資の回復とともに建設機械・成形機向けや半導体製造装置等のFA機器向けなどが増加したことに加え、再生可能エネルギー分野向けが売上増加を後押ししました。自動車向け製品においては、半導体供給不足の影響を受けつつも、自動車生産台数が前年同期と比較して高い水準を維持したこともあり、売上、利益とも大きく回復しました。

この結果、軸受機器の売上高は20,173百万円(前年同期比41.2%増)、セグメント利益は1,885百万円(前年同期は893百万円のセグメント損失)となりました。

#### ②構造機器

建築向け製品は都市再開発物件や大型倉庫物件で堅調な売上となりましたが、橋梁向け製品を中心に工期の遅れ等により第3四半期以降への出荷のずれ込みがありました。

この結果、構造機器の売上高は5,095百万円(前年同期比5.4%減)、セグメント利益は707百万円(前年同期比29.2%減)となりました。

#### ③建築機器

住宅用外付けブラインド「ブリエユ」は手動タイプの売上とメンテナンス関連の引き合いが堅調に推移しましたが、ビル向けの主力製品である排煙・換気用装置「ウィンドウオペレーター」は、緊急事態宣言や五輪期間の影響を受け第3四半期以降へ工期がずれました。

この結果、建築機器の売上高は2,674百万円(前年同期比6.4%減)、セグメント利益は48百万円(前年同期比59.9%減)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

前連結会計年度末に比べ、総資産は2,522百万円増加、負債は37百万円増加、純資産は2,485百万円増加した結果、自己資本比率は前連結会計年度末より0.6ポイント増加して77.0%となりました。

資産の増減の主なものは、流動資産では現金及び預金の2,001百万円の増加、受取手形及び売掛金の1,425百万円の減少、原材料及び貯蔵品の728百万円の増加、投資その他の資産では投資有価証券の496百万円の増加であります。

負債の増減の主なものは、流動負債では支払手形及び買掛金の456百万円の増加、未払法人税等の395百万円の増加、固定負債では長期借入金の736百万円の減少であります。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は、前連結会計年度末に比べて2,198百万円増加し、22,786百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は4,186百万円(前年同期は820百万円の収入)となりました。主な内訳は、収入では税金等調整前四半期純利益2,886百万円、売上債権の減少額1,678百万円、減価償却費1,400百万円であり、支出では棚卸資産の増加額969百万円であります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は726百万円(前年同期は2,127百万円の支出)となりました。主な内訳は、支出では有形固定資産の取得による支出845百万円、保険積立金の積立による支出422百万円、収入では定期預金の払戻による

収入551百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は1,520百万円(前年同期は976百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払額800百万円と長期借入金の返済による支出736百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年5月10日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,572	23,573
受取手形及び売掛金	17,889	16,463
商品及び製品	3,844	4,080
仕掛品	3,247	3,457
原材料及び貯蔵品	2,535	3,263
その他	861	1,208
貸倒引当金	△44	△48
流動資産合計	49,905	51,998
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,330	9,304
機械及び装置(純額)	5,071	4,883
土地	2,895	2,906
その他(純額)	4,777	4,773
有形固定資産合計	22,075	21,868
無形固定資産	369	359
投資その他の資産		
投資有価証券	6,128	6,625
退職給付に係る資産	113	108
その他	2,037	2,193
貸倒引当金	△15	△15
投資その他の資産合計	8,264	8,911
固定資産合計	30,709	31,139
資産合計	80,615	83,138

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,423	5,879
1年内返済予定の長期借入金	1,090	1,090
未払法人税等	494	890
賞与引当金	1,026	1,072
役員賞与引当金	88	47
株主優待引当金	118	14
その他	2,709	2,743
流動負債合計	10,950	11,739
固定負債		
長期借入金	5,297	4,560
役員退職慰労引当金	63	63
役員株式給付引当金	69	82
退職給付に係る負債	478	403
その他	1,197	1,245
固定負債合計	7,107	6,356
負債合計	18,058	18,095
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,585	8,585
資本剰余金	9,610	9,610
利益剰余金	46,955	48,072
自己株式	△5,144	△5,028
株主資本合計	60,006	61,239
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,835	2,192
為替換算調整勘定	△65	785
退職給付に係る調整累計額	△187	△160
その他の包括利益累計額合計	1,582	2,816
非支配株主持分	967	986
純資産合計	62,557	65,042
負債純資産合計	80,615	83,138

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	23,115	28,615
売上原価	16,018	18,980
売上総利益	7,096	9,634
販売費及び一般管理費	6,870	6,990
営業利益	226	2,644
営業外収益		
受取利息	45	29
受取配当金	85	91
受取保険金	5	117
為替差益	13	5
助成金収入	159	6
その他	51	73
営業外収益合計	359	323
営業外費用		
支払利息	11	13
デリバティブ評価損	36	19
その他	13	15
営業外費用合計	61	48
経常利益	524	2,919
特別利益		
投資有価証券売却益	16	10
特別利益合計	16	10
特別損失		
固定資産処分損	39	42
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	62	—
特別損失合計	101	42
税金等調整前四半期純利益	439	2,886
法人税等	100	919
四半期純利益	338	1,967
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	49
親会社株主に帰属する四半期純利益	332	1,918

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	338	1,967
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	531	357
為替換算調整勘定	△631	857
退職給付に係る調整額	33	26
その他の包括利益合計	△66	1,241
四半期包括利益	272	3,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	317	3,152
非支配株主に係る四半期包括利益	△44	56

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	439	2,886
減価償却費	1,340	1,400
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	1
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△9	△39
受取利息及び受取配当金	△130	△120
支払利息	11	13
固定資産処分損益(△は益)	39	42
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	45	△10
売上債権の増減額(△は増加)	3,050	1,678
棚卸資産の増減額(△は増加)	△886	△969
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,239	362
その他	△1,103	△548
小計	1,559	4,696
利息及び配当金の受取額	154	147
利息の支払額	△11	△13
法人税等の支払額	△881	△643
営業活動によるキャッシュ・フロー	820	4,186
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,076	△845
有形固定資産の売却による収入	21	12
無形固定資産の取得による支出	△22	△35
投資有価証券の取得による支出	△4	△4
投資有価証券の売却による収入	22	13
定期預金の預入による支出	△804	△362
定期預金の払戻による収入	766	551
保険積立金の積立による支出	△76	△422
保険積立金の払戻による収入	50	370
その他	△2	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,127	△726
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	—	△736
配当金の支払額	△785	△800
非支配株主への配当金の支払額	△129	△38
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	—	108
リース債務の返済による支出	△61	△52
財務活動によるキャッシュ・フロー	△976	△1,520
現金及び現金同等物に係る換算差額	△267	258
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,552	2,198
現金及び現金同等物の期首残高	21,832	20,587
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,280	22,786

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

当社グループは、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、有償受給取引については、従来有償支給元への売り戻し時に売上高と売上原価を計上しておりましたが、加工代相当額のみを純額で収益として認識することといたしました。

また、当社グループが顧客から受け取る対価は、値引き等の変動対価を含んでいる場合がありますが、顧客から受け取る対価が事後的に変動する可能性がある場合には、変動対価を見積り、その不確実性が解消される際に認識した収益の累計額に重大な戻入れが生じない可能性が非常に高い範囲で、収益を認識することといたしました。なお、変動対価は、過去の傾向や売上時点におけるその他の既知の要素に基づいて見積もっており、直近の情報に基づき定期的な見直しをしております。

なお、収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までにおこなわれた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理をおこない、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が26百万円減少し、売上原価が16百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ10百万円減少しております。なお、利益剰余金の当期首残高への影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えをおこなっておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(取締役及び執行役員に対する株式給付信託(BBT)の導入)

当社は、2018年6月28日開催の第67回定時株主総会決議に基づき、当社の取締役(社外取締役を除きます。)及び執行役員(以下、「取締役等」といいます。)に対する業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託(以下、「本信託」といいます。)を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下、「当社株式等」といいます。)が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、当社取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として当社取締役等の退任時となります。

連結貸借対照表に計上した本制度にかかる株式会社日本カストディ銀行が保有する当社株式は、前連結会計年度末268百万円(115千株)、当第2四半期連結会計期間末260百万円(112千株)であります。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引の再導入)

当社は、2020年11月4日開催の取締役会決議に基づき、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」(以下、「本制度」といいます。)を再導入しております。本制度は、「オイレス従業員持株会」及び「オイレスグループ従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブ・プランです。本制度の導入にあたり、当社は、当社を委託者、みずほ信託銀行株式会社を受託者とする「株式給付信託(従業員持株会処分型)契約書」(以下、「本信託契約」といいます。)を締結します(本信託契約に基づいて設定される信託を「本信託」といいます。)。また、みずほ信託銀行株式会社は株式会社日本カストディ銀行との間で、株式会社日本カストディ銀行を再信託受託者として有価証券等の信託財産の管理を再信託する契約を締結します。株式会社日本カストディ銀行は、信託E口において、今後5年間にわたり持株会が購入することが見込まれる数に相当する当社株式をあらかじめ一括して取得し、以後、持株会の株式購入に際して当社株式を売却していきます。信託E口による持株会への当社株式の売却を通じて、信託終了時まで、本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、かかる金銭を残余財産として、受益者適格要件を充足する持株会加入者(従業員)に分配します。他方、当社は、信託銀行が当社株式を取得するための借入に際し保証をするため、当社株価の下落等により、信託終了時において、株式売却損相当額の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。

当該自己株式の帳簿価額は、前連結会計年度末856百万円(576千株)、当第2四半期連結会計期間末747百万円(502千株)であります。総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額は、前連結会計年度末932百万円、当第2四半期連結会計期間末740百万円であります。

(新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響拡大や長期化による不確実性は依然、高い状況にあります。本感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、今後の拡大や収束時期等を予測することは困難なことから、当連結会計年度以降についても一定期間にわたり当該影響が継続する一方で、地域ごとに状況は異なりますが、引き続き2022年3月期から2023年3月期にかけて徐々に収束し、経済状況は改善するものと仮定のうえで、当社グループは当第2四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、将来の収益見込や繰延税金資産の回収可能性等の会計上必要となる見積りをおこなっております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響は不確定要素も多く、上述の仮定が見込まれなくなった場合には、将来において損失が発生する可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	軸受機器	構造機器	建築機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	14,290	5,387	2,858	22,535	579	23,115	-	23,115
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	-	0	2	20	22	△22	-
計	14,291	5,387	2,858	22,537	599	23,137	△22	23,115
セグメント利益又は損 失(△)	△893	999	121	227	△4	222	3	226

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、伝導機器事業等であり、  
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去額であります。  
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	軸受機器	構造機器	建築機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	20,172	5,095	2,659	27,927	687	28,615	-	28,615
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	-	15	16	32	49	△49	-
計	20,173	5,095	2,674	27,944	719	28,664	△49	28,615
セグメント利益又は損 失(△)	1,885	707	48	2,641	6	2,647	△3	2,644

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、伝導機器事業等であり、  
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去額であります。  
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「(会計方針の変更) (収益認識に関する会計基準等の適用)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方針を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

これにより、従来の方針に比べて、当第2四半期連結累計期間の「外部顧客への売上高」は、軸受機器事業で26百万円減少しております。また、「セグメント利益」は、軸受機器事業で10百万円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 該当事項はありません。

### 3. 補足情報

#### (1) 受注及び販売の状況

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

	期首受注残高		受注高		売上高		期末受注残高	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
軸受機器	2,812	22.4	20,611	69.7	20,172	70.5	3,251	24.1
構造機器	8,664	69.2	5,344	18.1	5,095	17.8	8,912	66.2
建築機器	753	6.0	2,773	9.4	2,659	9.3	867	6.4
報告セグメント計	12,230	97.6	28,728	97.2	27,927	97.6	13,031	96.7
その他	299	2.4	838	2.8	687	2.4	450	3.3
合計	12,529	100.0	29,567	100.0	28,615	100.0	13,481	100.0

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

	期首受注残高		受注高		売上高		期末受注残高	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
軸受機器	2,559	21.3	14,258	60.8	14,290	61.8	2,527	20.5
構造機器	8,304	69.1	5,547	23.7	5,387	23.3	8,465	68.8
建築機器	882	7.4	2,949	12.6	2,858	12.4	974	7.9
報告セグメント計	11,746	97.8	22,756	97.1	22,535	97.5	11,967	97.2
その他	258	2.2	669	2.9	579	2.5	348	2.8
合計	12,005	100.0	23,425	100.0	23,115	100.0	12,315	100.0

前連結会計年度(自2020年4月1日 至2021年3月31日)

	期首受注残高		受注高		売上高		期末受注残高	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
軸受機器	2,559	21.3	35,427	66.2	35,174	66.4	2,812	22.4
構造機器	8,304	69.1	10,879	20.3	10,519	19.9	8,664	69.2
建築機器	882	7.4	5,915	11.1	6,045	11.4	753	6.0
報告セグメント計	11,746	97.8	52,222	97.6	51,739	97.7	12,230	97.6
その他	258	2.2	1,279	2.4	1,237	2.3	299	2.4
合計	12,005	100.0	53,501	100.0	52,977	100.0	12,529	100.0

#### (2) 地域ごとの売上高

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
16,457	1,125	1,227	3,817	487	23,115

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。  
2. アジアのうち、中国向け売上高は2,446百万円です。

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
18,586	1,750	1,599	6,019	658	28,615

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。  
2. アジアのうち、中国向け売上高は3,504百万円です。